

I 第39週の発生動向 (2014/9/22~9/28)

1. 水痘については、患者報告数が前週の25人から40人に増加し、今後の発生動向に注意が必要です。

II 第39週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科 (90) インフルエンザ															0				
(79) RSウイルス感染症			2	0.2	5	0.5	2	0.4			2	0.5	11	0.3	7				
(80) 咽頭結膜熱			1	0.1									1	0.0	-2				
(81) A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	4	0.5	2	0.2	13	1.3					1	0.3	20	0.5	0			4	0.5
(82) 感染性胃腸炎	16	2.0	6	0.7	11	1.1	1	0.2			11	2.8	45	1.1	-13			16	2.0
(83) 水痘	3	0.4	10	1.1	4	0.4	1	0.2	12	2.0	10	2.5	40	1.0	15			3	0.4
(84) 手足口病	7	0.9					1	0.2	1	0.2			9	0.2	6			7	0.9
(85) 伝染性紅斑	1	0.1	4	0.4	9	0.9			1	0.2			15	0.4	-3			1	0.1
(86) 突発性発しん	3	0.4	2	0.2	6	0.6	3	0.6	3	0.5			17	0.4	-1			3	0.4
(87) 百日咳									1	0.2			1	0.0	0				
(88) ヘルパンギーナ	5	0.6			5	0.5	2	0.4	9	1.5	3	0.8	24	0.6	-1			5	0.6
(89) 流行性耳下腺炎	1	0.1			2	0.2			1	0.2	3	0.8	7	0.2	5			1	0.1
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0				
(92) 流行性角結膜炎			1	0.3	2	1.0							3	0.3	2				
基幹 (97) クラミジア肺炎															0				
(98) 細菌性髄膜炎															-1				
(100) マイコプラズマ肺炎					3	3.0					3	3.0	6	1.0	5				
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎 (ロタウイルス)															0				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

(9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前1人、八戸2人、五所川原1人、上十三1人 (2014年計:282人)

(15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 上十三1人 (2014年計:16人)

IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

感染症の窓

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (五類定点把握疾患)



典型的な苺舌

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。潜伏期間は約1~4日で、突然の発熱(38℃程度)、全身倦怠感、咽頭痛で始まり、頭痛、嚥下痛、頸部リンパ節の腫脹、圧痛、乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎を示します。菌が産生する発赤毒素に免疫のない人では、猩紅熱といわれる全身症状を呈します。気管支炎を起こすことも多いです。好発年齢は幼児、学童・生徒(5~15歳)ですが、本県でも3~7歳および10~14歳の年齢層における患者報告数が大半を占めています(図1)。

冬から春季に多発しますが、全国における発生状況は、平成25年11月(第45週頃)から報告数が急激に増加し、平成26年6月(第25週頃)まで多く、7月(第29週頃)に減少しましたが、再び8月(第33週頃)から増加の兆しが見られています。本県においても、全国と概ね同様に推移しました(図2)。今後の発生動向に注意が必要です。

冬から春季に多発しますが、全国における発生状況は、平成25年11月(第45週頃)から報告数が急激に増加し、平成26年6月(第25週頃)まで多く、7月(第29週頃)に減少しましたが、再び8月(第33週頃)から増加の兆しが見られています。本県においても、全国と概ね同様に推移しました(図2)。今後の発生動向に注意が必要です。

感染経路は、保菌者の唾液、鼻汁などが飛散することによって鼻・咽腔から侵入します(ヒトからヒトへの感染)。また、食品や飲料水を介しての感染や皮膚などの創傷部(外傷、火傷など)からの感染もあります。学校、家庭など集団での発生が多いので、2次感染予防のためには、患者との接触を避ける、手洗いなどの励行が大切です。

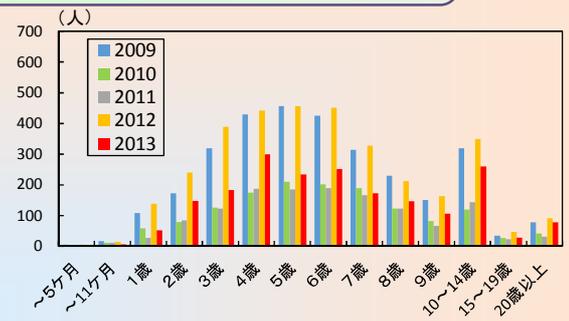


図1 過去5年間の県内における年齢別患者報告数

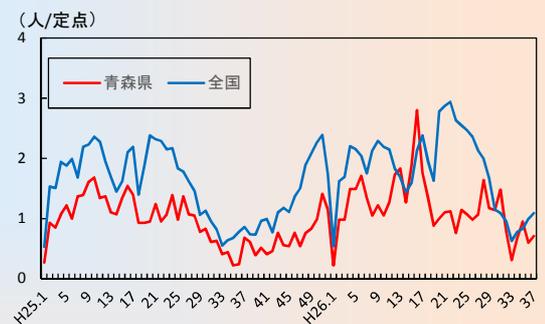


図2 定点当たり報告状況(2013年第1週~14年第37週)

【参考】IDWR「感染症の話」

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第23週～第39週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
23	H26.6.2 ~ H26.6.8		侵襲性肺炎球菌感染症1人	つつが虫病1人 レジオネラ症1人	つつが虫病1人		
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	つつが虫病1人		E型肝炎1人 つつが虫病2人			
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	A型肝炎1人 レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第29週～第39週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	1	1	4	1	1	1
30	H26.7.21 ~ H26.7.27	2	2	3	1		1
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	3	1	7			
32	H26.8.4 ~ H26.8.10		5	4	1		
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14	3	3	7	1	1	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21		1	4	1	1	
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	2	1	1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第37週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コクシジオイトス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリヌス症	マリア	
累積報告数	18194	3	76	3226	34	13	106	396	14	7	1	1	1	55	9	114	247	138	1	10	1	49	
分類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	野兔病	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイン耐性球菌感染症	風しん	麻しん		
累積報告数	1	8	813	15	763	170	330	82	122	186	1032	42	134	25	1240	8	1126	87	35	277	445		

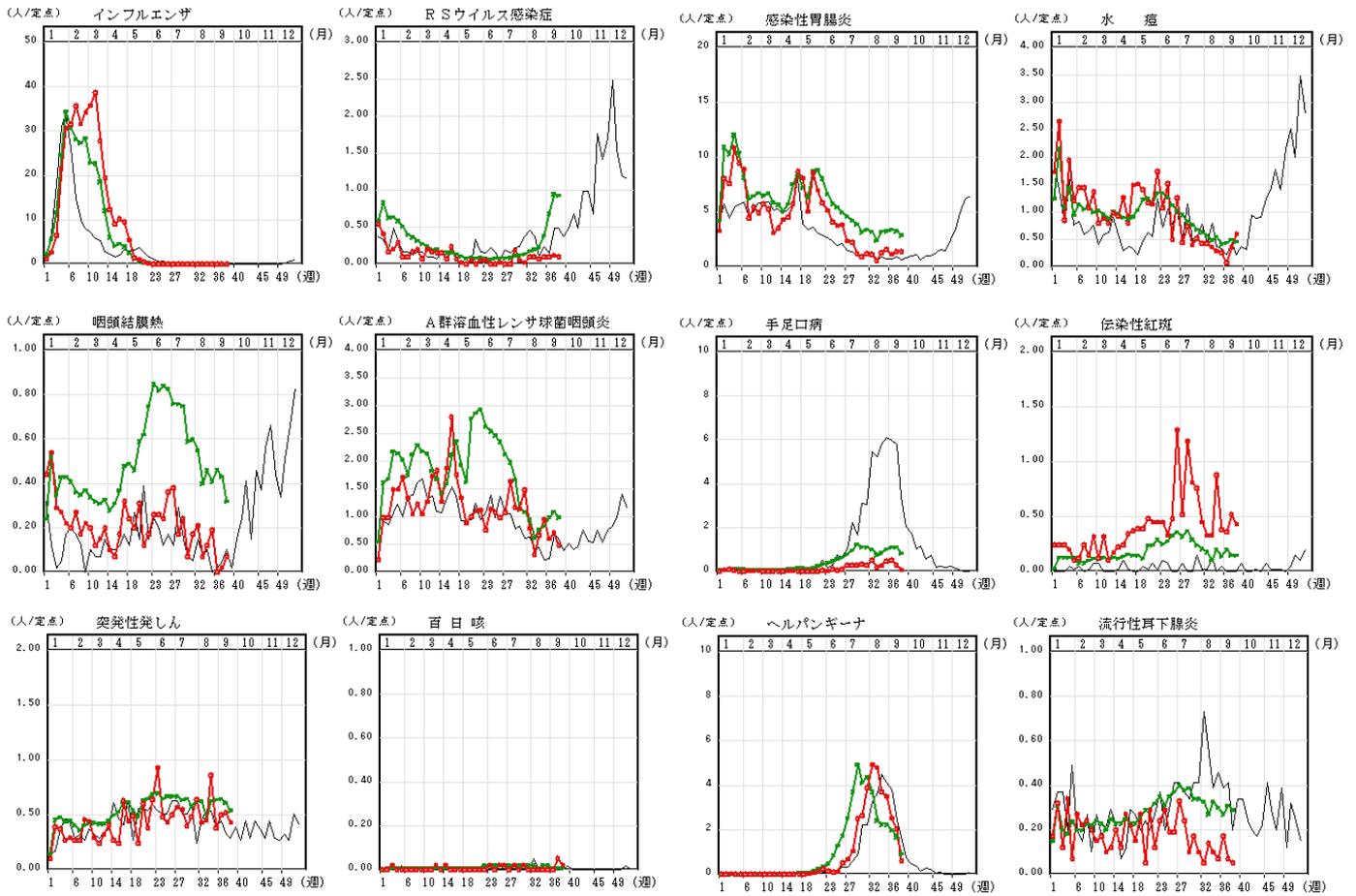
青森県

(2014年第1週～9月30日9:00累計)

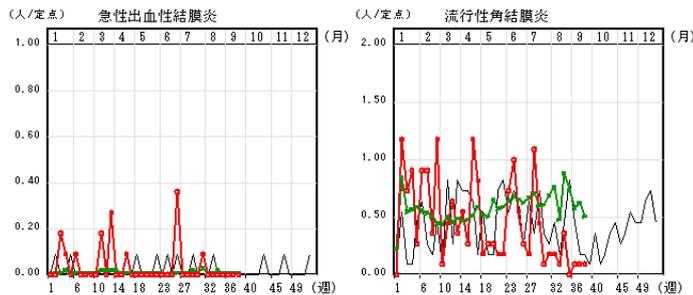
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風		
累積報告数	282	16	2	3	10	1	3	6	8	1	1	3	1	6	4	1		

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第38週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第38週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第38週)

